

# NEW QUESTION

## 化粧品研究に、新しい問いを。

### — 生体環境から考える、これからの化粧品研究

化粧品研究ではこれまで、成分やその機能を明らかにすることが重要な研究テーマとなってきました。一方で、成分が働く場は、単純化された反応系ではなく、皮膚の構造、細胞、微生物、代謝物、そしてそれらの相互作用からなる「生体環境」です。私たちは、そこで何を見て、何を評価し、そこからどのように素材や技術の価値を見だしていくのか。本セミナーでは、異なる研究領域から二つの視点を提示します。



#### SESSION 01

皮膚の構造と状態から、素材の価値をどう捉えるか

#### 「最新皮膚エイジングメカニズムと高機能性アンチエイジング剤の開発手法」



#### 芋川 玄爾 先生

自治医科大学 皮膚科 客員教授／医学博士  
花王株式会社研究所で皮膚科学研究に携わり、合成擬似セラミドを開発。東京工科大学教授などを歴任。日本化学会化学技術賞、紺綬褒章ほか。

素材の評価系の構築から in vitro・in vivo、臨床評価へとつなげた研究事例をご紹介します。

Structure → Evaluation → Application

#### SESSION 02

微生物と宿主の相互作用から、生体環境をどう捉えるか

#### 「宿主-腸内細菌叢相互作用が宿主の生理・病理に及ぼす影響」



#### 大野 博司 先生

理化学研究所 生命医科学研究センター 粘膜システム研究チーム チームディレクター／医学博士  
千葉大学医学部卒。NIH訪問研究員、金沢大学がん研究所教授などを経て現職。野口英世記念医学賞、上原賞、紫綬褒章ほか。

微生物・代謝物・宿主応答の相互作用から生体環境を捉える、化粧品研究とは異なる視点をご紹介します。

#### TIME TABLE

|             |                                                         |
|-------------|---------------------------------------------------------|
| 14:00-14:10 | 開会挨拶                                                    |
| 14:10-15:00 | SESSION 01 「最新皮膚エイジングメカニズムと高機能性アンチエイジング剤の開発手法」 芋川 玄爾 先生 |
| 15:00-15:20 | 休憩                                                      |
| 15:20-16:10 | SESSION 02 「宿主-腸内細菌叢相互作用が宿主の生理・病理に及ぼす影響」 大野 博司 先生       |
| 16:10-17:00 | 交流会（注目素材のご紹介）                                           |

#### THREE PERSPECTIVES

「生体環境」を捉え直し、「構造・状態・応答」の三つの視点から新たな問いを考えます。

#### STRUCTURE

何が、生体の基盤をつくっているのか。

#### STATE

その環境は、どのような状態にあるのか。

#### RESPONSE

環境の変化に、生体はどう応答するのか。

このセミナーで「答え」を提示することが目的ではありません。

あなた自身の研究や開発に、新しい問いを持ち帰っていただくこと。

DATE 日時

12月10日（木）

2026年 14:00-17:00

PROGRAM

講演 + ディスカッション  
+ 交流会

VENUE 会場

東京国際フォーラム

FOR 対象

化粧品・美容領域の研究開発、  
商品企画、技術開発に携わる方

FEE / CAPACITY

参加費無料

定員30名程度

HOST 主催

Spec-Chem Japan

ENTRY お申込み

メールにて受付

info@specchemjp.com

10月5日（月）受付開始